

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2021年11月19日

Meijer Market Turing Plastic Bags into Pavement

マイヤー・マーケットがプラスチックのレジ袋を舗装道路に再利用

食品小売業が環境対策に取り組む実例の1つとして、使用済みプラスチックを一般道路の舗装技術に再利用するパイロット・プロジェクト（先行実験計画）が注目されています。

米国の中西部ミシガン州を拠点に約260店舗展開しているMeijerは、同州に本拠地がある世界最大の化学開発メーカーDOWとコラボし、使用済みビニール袋をリサイクルし、ミシガン州ホランド市に出店しているMeijerスーパーセンターの駐車場を耐久性の高い新技術で舗装をします。

その際、Meijer Market 店内に設置されているリサイクル箱に保管した約12,500ポンド（約6トン）のプラスチックを使用しました。

再生ポリマー改質アスファルト（RPMA）で造られた駐車場に944,000のレジ袋に相当する約12,500ポンドの使用済み再生プラスチック（PCR）を活用した3段階のパイロットプロジェクトとなっています。

リサイクルされたビニール袋をフル活用するプロジェクトは、持続可能な未来に向けて長期的に取り組みを行っています。

Meijerの社長兼最高経営責任者リック・キーズ氏は、この取り組みについて次のように述べています。



「Meijer は常にグッドカンパニーであれ という理念に基づいて経営しております。我々はローカルの良き隣人でなければならず、それは共通の目標について志を同じくする企業と協力することを意味します。プラスチックのリサイクルと再利用を通じて環境への影響の低減に配慮尽力し、サーキュラーエコノミーへの取り組みを示す為、また州内で最大のプロジェクトで持続可能な未来にする為、お客様や DOW と提携することは不可欠な事であり、提携出来る事をたいへん嬉しく思います。」

駐車場のパイロットプロジェクトに使用されたすべての再生プラスチックは、店内で行われているプラスチックフィルムリサイクルプログラムで Meijer の顧客から寄託されました。



Meijer は 2014 年から各店舗の正面玄関に収集箱を設置し、顧客が使い捨ててきた袋やパン、ドライクリーニング、農産物や軟水器の袋を含むビニール袋やフィルムを預かるよう受け入れを整えました。

今年は 600 万ポンドのプラスチックをリサイクルする予定です。同社のプロパティ担当の上級副社長ビック・シュニーバサン氏は、「リサイクル活動の強化で環境への影響を軽減することは弊社にとって重要事項です。そのためにこのパイロットプロジェクトはお客様のショッピングを向上させながら、現在のリサイクル活動を循環させる方法の一環です。」と述べています。

このパイロットプロジェクトでリサイクルされたプラスチックを再生し、再舗装された駐車場に替える為、多数のパートナーが参加しました。

素材のリサイクル業者 PADNOS は Meijer のリサイクルプラスチックを集約し使用可能な物質へ変換させ、アスファルト乳剤会社 K-TechSpecialtyCoatings はベースアスファルトのバインダーを改質しました。

そして建設請負業者 Rieth-Riley は、最終的なホットミックスアスファルトを製造し Meijer の駐車場とガソリンスタンドの道路を舗装しました。

実は再生プラスチック改質アスファルトが、プロジェクトで使用されたのはこれが初めてではありません。

2019年8月、DOW はミシガン州で再生プラスチックを改質させたアスファルトを使用し、舗装された米国初の公共アスファルト道路の完成を発表しています。

同年 DOW は、テキサス州フリーポート市の施設で2本の私道を完成させたことも発表しています。

この再利用プロジェクトは、今後も引き続き、全米へ拡大すると予測されています。



環境保護の目的で2016年からカリフォルニア州を皮切りにレジ袋を有料化し、マイバックを奨励してきましたが、昨年のパンデミック直後からマイバックが使用できなくなり、店側はレジ袋を無料で提供していました。

ロックダウン直前まで多くの小売業がお洒落なマイバックをどんどん販売し、消費者間でマイバックを持参しショッピングすることは日常化しつつありました。

再びプラスチックの袋が廃棄されてもしばらくの間は環境よりも感染を防ぐ方が優先となっていたので、環境保護対策は振り出しに戻ったのかなと懸念していたら、この手があったのですね！

レジ袋有料化の動きがスタートした当時、プラスチックは悪者扱的なイメージでしたが、『Reduce(減らす)』するだけでなく、廃棄されるものを新しく価値のあるものへ再生利用する事『Upcycling』が、SDG'sの目指す循環型経済すなわちサーキュラーエコノミーであり、この分野に食品小売業チェーンが参画する事はたいへん素晴らしい事だと思います。

是非、来年こそはプラスチックをアップサイクルした舗装道路を視察してみたいものです。